

地域包括ケアに向けて踏み出した実践活動の一例

☞ **取り組み内容のポイント** ☞ 地域包括ケアに向けて、「認知症になっても安心して暮らせる地域づくり」をめざして、地域のために何ができるのかを問い、まずは認知症サポーター養成講座を各地区で展開していき、そこから地域でのつながりの輪を広げていく活動を進めている。

鳥取県

社会福祉法人

こうほうえん

〒683-0021 鳥取県米子市石井 1238 なんぶ幸朋苑

TEL：0859-26-5566 FAX：0859-26-5570

●法人創立年

昭和 61（1986）年

●法人実施事業

①経営施設数合計：23 施設 177 事業所

②経営施設・事業【種別毎の数】：

特別養護老人ホーム…8、老人保健施設…3、ケアハウス…5、生活支援ハウス…4、高齢者向け優良賃貸住宅…1、高齢者専用賃貸住宅…2、保育所…5、リハビリテーション病院…1、デイサービス通所介護…14、訪問介護ヘルパー…4、訪問看護…4、訪問リハビリテーション…3、デイケア…5、ショートステイ…7、特定施設入所者生活介護…4、福祉用具貸与…1、グループホーム…8、小規模多機能型居宅介護…5、居宅介護事業所…5、他

●法人の理念・経営方針

<理念>

「わたしたちは 地域に開かれた 地域に愛される 地域に信頼される 『こうほうえん』をめざします」

<基本方針>

「わたしたちは サービス業のプロとして 正しい情報を伝達し自分が受けたい 保健・医療・福祉サービスの提供・改善に努めます」

●取り組みの定款・事業計画上の位置づけ

①定款への記載：記載していない

②事業報告・計画への記載：記載している

●取り組みを実施している施設の概要

【施設名】：なんぶ幸朋苑

【施設種別及び利用定員】：

特別養護老人ホーム定員 104 名、短期入所生活介護定員 16 名、老人保健施設定員 80 名、ケアハウス・特定施設入居者生活介護定員 50 名、認知症対応型共同生活介護定員 27 名、生活支援ハウス 20 名、小規模多機能型居宅介護 2 箇所、通所介護定員 40 名、認知症対応型通所介護定員 12 名、通所リハビリテーション定員 67 名、訪問看護、訪問介護、定期巡回随時対応型訪問介護看護、居宅介護支援、地域包括支援センター

●活動内容

◇活動開始年：平成 22（2010）年 4 月

◇活動の対象者：

地域の高齢者、住民、利用者、学校生徒、児童、民間事業所 等

◇活動の頻度・時間

●活動実施の背景、実施にいたった理由

急速な高齢化とともに認知症高齢者の増加が見込まれている。なんぶ幸朋苑がテリトリーとする米子市南部地域の 65 歳以上の方は 3,448 人、高齢化率 27.4% と、市内でも一番高率で、認知症高齢者の増加も顕著であり、地域からの相談件数も年々増加している。そこで、なんぶ幸朋苑として地域にできることは何か、認知症の方やその家族が地域で安心して暮らせる支援をどのようにしていけばよいのかを考えた。こうほうえんが法人内で統一目標として掲げている「地域包括ケアに向けた事業展開」の実践でもある。今後認知症を取り巻く地域の繋がり、地域の力が非常に大きな意味をもってることから、私たちが主体となって活動を進めるためには、認知症の正しい知識を持ち、認知症の方やその家族の気持ちを理解できる専門的な支援者が必要になってくる。そこで、で

きるだけ多くの職員がキャラバンメイトとなり、地域で認知症サポーター養成講座を広く展開していくことを目標として掲げた。

●実施内容

平成 22（2010）年度から地域包括支援センターとタイアップするかたちでキャラバンを開始した。最初はなんぶ幸朋苑の家族会やボランティア組織、地域住民を対象に苑や公民館、集会所で実施した。23（2011）年度からは一般企業や薬剤師会のような団体、学校、公共主催の研修会などにも活動を広げていった。内容は講義、寸劇（多数の職員でなんぶ一座を構成）、紙芝居を織り交ぜ、認知症高齢者への対応を、サポーターとなる一般住民にわかりやすく説明したり、活動内容を紹介したりしている。講座の中ではグループワークを取り入れ発表する形をとっている。今年度は近くの県立高校でも数回に分けて実施する予定であり、高校生

にも寸劇に参加してもらい、認知症を身近に感じ、正しく理解されるように内容を検討している。当苑は鳥取県の家庭教育推進協力企業としての活動でも学校等との交流は盛んであり、苑全体で、次世代育成の視点も取り入れた認知症に対する啓発活動も行なっている。

◎活動効果（利用者や職員、地域などの反応、影響）

キャラバンメイトにより認知症についての理解をわかりやすく説明し、寸劇を通してより身近な問題として受け止め、接し方を学んでもらうことで、地域住民に認知症を正しく理解してもらうことができた。地域での対応や、個々の対応の意識が変わってきたという感想を民生委員などから聞いている。また活動を通じて、身近な方や自分自身が「いつもと違うかな？」と感じたときに、すぐに相談できる機関が地域の中にあるということを知ってもらえたことも大きな成果といえる。そして、職員がキャラバンメイトになることにより認知症の理解を深め、それを組織化してサポーターを養成することで、活動への自覚が深まったと思う。また、寸劇の配役として参加することで、わかりやすく伝える表現力も備わり、施設の現場で認知症の方に実際に関わるときの参考にもなり、自信にも繋がっている。

◎今後の展開

上記のような活動の結果、なんぶ幸朋苑では、



サポーター養成講座における寸劇の1こま



サポーター養成講座における寸劇の1こま



講義の様子



紙芝居を使った講義の様子

平成 23（2011）年度に米子市の認知症予防モデル事業や定期巡回随時訪問型介護看護モデル事業を受託し、他職種の職員が包括的なケアに関わる経験も積んだ。またエリアの中に地域密着型の4事業所を有しており、これまでに培った介護・医療連携や人的ネットワークを利用できる環境を作ってきた。そうした取り組みが活動に力を与えている。今後も職員は地域の中へ積極的に行き、一人暮らしや高齢者世帯、認知症の方や家族の方の見守りができる多数の支援者を養成していくことが目標になる。また次世代を担う子どもたちにも参加してもらい、誰でも自分たちの住み慣れた地域で安心して暮らせるよう、全世代に広める活動を展開していきたい。

◎主な経費や財源及び人員等

- ・取り組みに係わった職員数〔延 217〕名
（職種等：介護士、看護師、社会福祉士、介護支援専門員、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士 等）
- ・取り組みを実施している施設の事業規模（平成 23（2011）年度決算の事業活動収入）〔1,730,225〕千円
※法人全体の事業規模（同上）〔11,065,428〕千円

年度	キャラバン メイト数	実施回数				参加者	出勤 職員数
		地域	企業	学校	他		
2 1	5	—	—	—	—	—	—
2 2	30	5	—	—	2	384	62
2 3	35	7	1	1	2	628	101
2 4（8/10 現在）	36（予定 55）	3	—	—	3	214	35